

福岡城に天守閣を  
— 城のある都市復活元年!! —

# お城だより

2008年10月  
No.19



復元された下の橋大手門 (写真提供: 福岡市教育委員会)

## 「黒田二十五騎」

NHK福岡放送局

局長 石田 研一



NHK福岡放送局が天神から福岡城址の南、大濠公園の傍らに移転したのは平成四年のことで、早くも十六年近くがたちました。

今年も九月二十三日のおおほりまつりの日には、西公園を出発した吉田市長扮する黒田長政を先頭に、戦国時代そのままの甲冑に身を固めた黒田二十五騎がNHK福岡放送局に到着し、勝ち鬨を上げました。荒津の舞や和太鼓も上演され、古くは鴻臚館の時代から遣唐使らが中国大陸を目指し、朝鮮通信使も上陸した千二百年にも及ぶ福岡の歴史と文化の奥深さを感じさせました。

おりしも、今年は、福岡市博物館で、「黒田長政と二十四騎〜黒田武士の世界」と題する展覧会が黒田長政生誕四百四十年を記念して開かれています。父孝高は、播磨の国に身を起こし、秀吉に従って、中国、四国、九州の平定に参加し、子の長政は、朝鮮出兵の後、関ヶ原の戦いでは、家康の東軍に参加して戦功をあげ、筑前一国を領する大大名となりました。戦国時代を生き抜いた孝高、長政の歴戦がよく描かれた展示でした。

姫路や中津など黒田家ゆかりの土地では、孝高をNHKの大河ドラマの主人公へという運動もあると聞いています。先日、姫路で開かれた黒田家にゆかりの都市の代表が集まる「黒田サミット」でも、こうした声があがったそうです。

今に残る黒田二十五騎の勇姿と黒田家の歴史を振り返ると、四百年前の築城当時の福岡城の威風堂々とした姿は如何許りであつたらうかと石垣を眺めながら、思いをめぐらせています。



## 鴻臚館・福岡城を偲ぶお城まつり 平成二十年福岡城観月の宴

恒例の観月の宴（読売新聞西部本社・鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会主催）は、中央区舞鶴公園西広場で九月十五日夕開催されました。宴に参加される皆様を導く灯明四百基は、福岡教育大附属福岡小学校児童の作品でした。

恒例の観月の宴（読売新聞西部本社・鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会主催）は、中央区舞鶴公園西広場で九月十五日夕開催されました。宴に参加される皆様を導く灯明四百基は、福岡教育大附属福岡小学校児童の作品でした。



写真提供：読売新聞西部本社

## 福岡歴史観光市民大学・中間報告

構想三年を経て、今年盛夏の八月四日、読売新聞西部本社一階よみうりプラザで開講式を迎えることができました。チラシを二ヶ月前に準備し新聞紙上でも数回取り上げて頂き当初六十名募集予定の処を反響の大きき問い合わせの多さから八十名に増し市民の期待にこたえるべく会場担当の方にもお願いしました。ご理解と協力に心地よく応じられ文化事業に対するモチベーションの高さに関心しました。

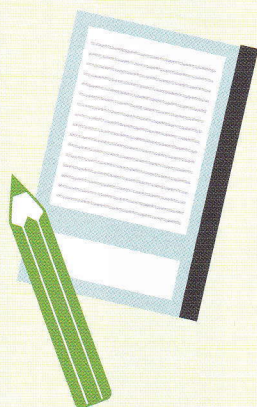
講師をお願いした各先生方には社会のニーズに適合した教養講座であり、市民の求めるものであるとの共通認識によつて福岡市の持つ豊富な文化資源の掘り起こしをして活性化につとめようといういろいろ教示して下さいました。その間市民の方々からは応募数が激増し事務局員はお断りの言葉に苦労するという一面もありました。種々の曲折をえてどうしても受け入れ不能の方には来年度受講をお願いしました。最終的には会場一杯の百名の方々と、項目により受講される方々約二十名の申込みに応ずることになり、二十二回、四ヶ月超の講座と現地研修がスタートしました。これまでの出席率は九十

パーセントをこえ、皆さんの熱意に驚いている現状です。より濃密な市民生活に直結した歴史・福岡市に遺された豊富な資源（遺跡の発掘や歴史遺産の保存整備・民間伝承による郷土芸能の育成・外国交渉の窓口となつた博多の特異性につながる事柄等々）を皆さんに知ってもらい語りつぐために系統だつた講座となつております。

何を学び、何を残し、何を伝えていくべきか話題はつきまませんが、受講者の真剣なまなざしと熱意あふれる受講態度は教育関係者にみせてあげたいと思うほどです。

いろんな質問や新資料の提供など活気にあふれた講座はきつと福岡市の活性化につながりすてきなバアチャン、ジイちゃんがお孫さんに語り広げていかれるでしょう。

あと一ヶ月余 元氣な受講を待つてます。  
(津田 慶二)





# 福岡城探訪

## 福岡藩を守り通した黒田長政

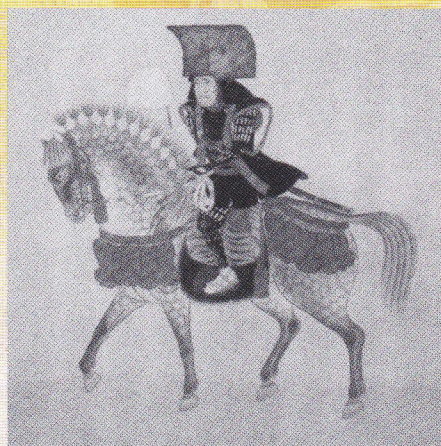
藤 金之助

或る時、如水は長政に向って「お前は、わしより優れたところがいくつもある。」として、「わしは信長、秀吉の機嫌をそこねて三度頭を丸めて謹慎したが、お前は家康、秀忠の御意になつてうまくやつておる。また、わしは一生十二万石、お前は五十二万石である。さらにお前は度々、功名をあげているが、わしは自分で武功をあげたことがない。そのうえ、わしは無分別、お前は分別者である。」と言いながら「ただ、わしがお前に勝ることが二つある。一つは人使いであり、次にバクチ上手である。お前はバクチが下手だ。」

如水は智謀の人、長政は武勇の人で、右の説話は「子を見ることに親にしかず」で、親子でもずいぶん性格が違っていたことをよく物語っている。

如水のいう無分別とは、謀反を起した荒木村重を説得すべく、單身伊丹城に乗りこみ失敗、信長を激怒させたことや、朝鮮出兵の折、浅野長政と碁を圍み、石田三成の憤激を冗い、秀吉の勘気をこうむったことなどである。

バクチとは本能寺の変で、すばや



黒田長政の肖像画(部分・福岡市博物館蔵)

今年、八月姫路市で行われた黒田サミットの会場に数多くひるがえった幟には「その男、天下に秘する野望あり。」と墨痕鮮やかに書かれていた。姫路が生んだ黒田官兵衛のことである。

く毛利一族と講和し、秀吉に中国大返しを進言、山崎の戦いで明智光秀を破り、秀吉の天下を築いたことや、関ヶ原の戦いをチャンスに九州を制覇、天下取り狙ったことを指すのであろう。

あまりにも偉大な父を持った長政は、よく側近に「自分は十四歳の時に初陣して、こんにちまで数々の戦功があつたが、如水の子であるということ、いつも父と比較されて一向に目立たなかつた。」と口惜しがつたという。

長政は青年時代より秀吉に従つて戦陣の日々を過し、朝鮮の役でも目覚ましい働きを見せた歴戦の勇将であり、関ヶ原では拔群の功績が認められて五十二万石の太守までなつた戦国時代第一級の武将である。

長政は永禄十一年(二五六年)に姫路で生れた。松寿丸といった十歳の時、悲劇が起つた。父の如水が荒木村重の説得に行つたまま消息をたつたのである。如水が村重に同心したと誤解した信長は、秀吉のもとで人質になつてた松寿丸の殺害を命じたが、軍師、竹中半兵衛の手で秘かに美濃の山奥に匿まれる。恐怖のなか長政は子供心に権力者の力と非情さを身にしみ味わつたであろう。このことが長政の一生を通じて影を落としたものと思われる。

豊前時代、手を焼いた宇都宮鎮房と和議を結びその娘鶴姫を正室として迎えたが、鎮房誘殺後、鶴姫も処刑するといふ悲惨な結果を招く。その後、秀吉の命により蜂須賀小六の娘をめとり一女をもうけるが、これも関ヶ原の戦いを前に家康の要望により離縁、養女の栄姫を迎え、やつと安定した家庭を持つといふ政略結婚を強いられている。

また重臣、後藤又兵衛が脱藩した後、大阪の陣で豊臣方に加担したことで家康に疑われ出陣を拒否され、十三歳の忠之が病氣をおして参戦したということもあった。

加藤、福島など豊臣恩顧の大名が次々と潰されるなか、ひたすら黒田家を守つた黒田長政の姿に現代人としては深い感銘を覚え、むしろ人間味あふれる親しみと共感を持ちたい。

長政は元和九年八月四日、京都報恩寺で死去、五十六歳、長政の遺言を守つた福岡藩は明治まで二七〇年続いた。  
(参考 柳猛直著「黒田三百年ほか」)

### 新規会員登録

(平成20年10月24日現在)

#### 正会員(個人)

松原 勉

#### 一般会員(個人)

石井 守正  
梅木 賢太郎  
小林 孝洋  
坂本 真弓  
島野 加代子  
高口 加代子  
永田 中  
野口 悟  
濱口 孝子  
的野 弘喜

#### 正会員(団体)

第一交通産業(株)

#### 一般会員(団体)

(株)アドスペース  
(有)トステック  
(株)プリントコーポレーション



## 第二回 お濠端会

九月五日(金)よみうりプラザにおいて三度目のお濠端会を開催いたしました。

今回は、母里太兵衛末裔の母里忠一氏に卓話をお願いし、柳生新影流兵法の実演とお話をうかがいました。刃の言葉として現在も使われているもの「せつつばつまる」切羽(刀の柄にある薄い金物)「しのぎをけずる」鎬は刃と峰との間の小高い部分「つばぜりあい」刀のつばで押し合うこと」等、貴重なお話でした。

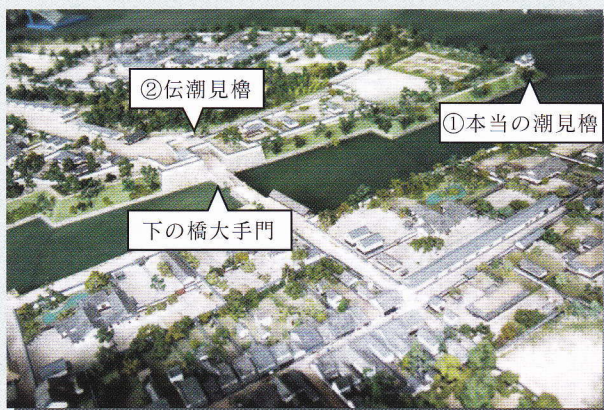
参加者からの一言

- ・新ビルの上から見ると福岡城内は広い。
  - ・大河ドラマに黒田如水はとの声があるが、単発のドラマとして考えてみるがヒロインが問題?
  - ・東京から来て、時代が感じられる福岡であるが、自分たちの文化や歴史を知らせることが必要では?
  - ・人の動きが激しい街。県民、地元人間があまり動かない。
  - ・地元福岡に対する郷土愛をもつと豊かにもっていききたい。
  - ・地域の伝統文化、特に言葉に誇りを持つ事が大切だと思う。
- 会議後、なごやかに懇談いたしました。



## 表紙

### 復元された、下(しも)の橋大手門 写真の説明



#### 【福岡城・下の橋大手門】

この門は下の橋にあったので「下橋御門」とか「西御門」と呼ばれてきました。

門の配置形式は櫓形門と呼ばれ、門を入ると枳形(正方形)に配された石垣の壁が右に曲がり、戦いの際には城の防衛に有利に造られています。

また、櫓門の二階から博多湾を眺望できたので、別名「渦見(うずみ)門」とも呼ばれていました。



#### 【潮見櫓】について

①本当の潮見櫓の位置は北の丸の北西の角にあり、明治時代に崇福寺仏殿として移築されていました。現在は解体され部材のみ保管されています。

②下の橋大手門の横に「伝潮見櫓」が現存しています。この櫓は本丸への入口の一つである本丸裏御門の横にあった「古時打櫓」または伊之助櫓との説が有力です。もともと下の橋大手門の横は、上の模型の写真のように空地で櫓はありませんでした。

#### お知らせ 終講式予定について

福岡歴史観光市民大学の終講式は来る十二月八日の月曜日午前十一時からよみうりプラザで実施の予定です。

盛夏の八月四日に開講し、教授陣の熱心な講義に少年のような真剣な瞳を向けて一言も洩らすまいとする受講者の態度はすばらしい一言につきます。この四ヶ月余、毎週月曜日に通学され無欠席で受講し、現地研修で福岡市内の文化遺産にふれ故郷への思いを蓄積された皆様、資料を大切に生かし、誇りを持って友人、知人に語り継いでください。

この稿を読まれた方々はぜひ受講者に説明の機会を作って下さい。知る楽しみから、語り合う楽しみに、そして誇りうる我が故郷福岡を大事にしましょう。

卒業試験は自己採点で 担当 津田 輝

#### 編集後記

お城だより十九号をおとどけします。来年は二〇号を迎えます。この活動を始めて約五年の歳月が流れました。会員の方々の暖かいご支援によりここまで歩んできたのではと考えます。

多くの行事やイベント、市民大学など多忙な昨今ですが、会員の皆様のご意見に耳を傾け、より充実した会にしていきたいと思えます。事務局も努力してまいります。今後ともご協力方よろしく願っています。

#### 編集・発行:

鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会

#### 住所:

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-15  
読売福岡ビル7階

TEL:092-716-8238

FAX:092-716-8254

#### HPアドレス:

<http://fukuokajokorokan.npgp.jp/>

#### E-mail:

[fukuokajo@tos.bbiq.jp](mailto:fukuokajo@tos.bbiq.jp)

デザイン・印刷:(株)セブンプリンティング